



自然環境と人間の営みが互いに影響し合ってきた文化的景観。崎津・今富は山が間近に迫り、目の前は海や干潟で狭い地形でした。貴重な生活空間を有効活用するために、崎津ではカケを作り、今富では干拓による農地拡大を行い、現在も受け継がれています。

特に今富は狭い地形の中で農業を営んでいましたが、江戸時代半ば以降に干拓によって稲作を中心にした暮らしを確立。県指定重要文化財「上田家文書」の中にある「大江組明細帳」にも、年貢などの積み下ろしをした港や干拓のようすが記されています。

干拓によって集落を成り立たせ、隣の崎津などと交流を行うことで生活基盤を固めた先人の知恵が今なお息づいています。8月は稲刈りの季節ですので、夏休み期間を利用して一度訪れてみませんか？



▲水上につくられたカケ

exploration of history

天草 文化財 探訪

地域の歴史を知る上で欠かせないのが「文化財」。天草市には206もの指定・登録文化財があります。今回は、河浦町の重要文化的景観をご紹介します！

文化課 ☎ 32-6784

キラリ 天草人 天草市商工会 青年部有明支部 (有明町)



若い力で有明地区を盛り上げる

有明地区の夏の一大イベントであるさざ波フェスタ。このイベントのサンドアートフェスティバルでは、四郎ヶ浜ビーチに砂像が並び、同地区の夏の風物詩になっている。

同フェスティバルは天草市商工会青年部有明支部の16人で運営しており、今年で13年目。砂像は砂を高く積み上げた土台を削ってつくられており、同支部はこの土台づくりも手掛けている。

土台は木材を使って正方形の型枠をつくり、その中に重機で砂を入れて踏み固めていく。崩れないようにしっかりとつくるのが重要で、海水を砂に撒きながら作業することが頑丈にするためのポイントだ。この作業を繰り返して、ピラミッド状の土台が出来上がる。仕事終わりに毎日2時間程度作業し、3週間程かけて高さ3mのものを2つ、2mのものを4つ制作した。

「いろいろな種類の砂像を楽しんでほしいが、彫刻してくれる人を探すのに毎年苦労している」と話す支部長の砂原敦さん。制作に時間がかかることもあり、引き受けてくれる人が少ない。つくり方を教えることもできるので、興味がある人は大歓迎だそうだ。他にも、同フェスタに訪れた子どもたちにも取り組んでもらおうと、砂のプールにも取り組んでいる。砂浜を10m

四方の深さ30cm程度に掘って、厚手の防水シートを敷き、その中に海水を入れる。型枠で余った材料などを使った手づくりの滑り台も好評だ。「準備など大変なことも多いが、訪れた人を楽しんでもらえることがうれしい。先輩たちの思いを引き継ぎ、有明地区を盛り上げていきたい」と話す砂原さん。地域活性化の原動力になっている。この地元愛が活動の原動力になっている。

彼らの思いが込められたサンドアートをぜひ見てほしい。



1 土台づくりの作業
 2 一昨年の砂像。今年は8月15日まで展示。
 3 砂のプール。滑り台は毎年グレードアップ！



カヤツ丸展望台 (栖本町)



天草 見どころ図鑑

天草最高峰の倉岳山頂近くにあるカヤツ丸展望台は標高540mに位置しています。天草の島々や長崎県の雲仙岳、上天草市の湯島など美しいパノラマが広がる絶景の展望台です。展望台手前までは、車で行くことができます。

★見どころポイント

展望台までの道中では、春は桜、夏は緑、秋には紅葉と季節の変化が楽しめます。